# 市長報告 新庁舎等建設の方針変更 各会派の意見

新庁舎等建設について、今年２月に市長から建設費増額と３回目の入札を目指すことが示されていましたが、９月１日の本会議で設計の見直しを含めた新たな方針が表明されました。各会派の意見を紹介します。

市長報告はこちらから

## みらいのこがねい

白井市長は、庁舎等建設事業（本事業）が進まないことが市政停滞のボトルネックであるとし、最重要課題と位置付けてきた。しかし、具体的な進展がないまま突然現方針を断念することを決め、議会への事前の説明の機会を設けることなく一方的に市長報告の形で重大な判断を示した。その理由は、資材価格等の高騰により想定事業費が240億円に上るとしているが、次の点で説明が不十分である。①本事業の財政上の制約について、根拠となる具体的な基準や数値が示されていない。②本事業を見送った場合に将来にわたり生じる費用（現本庁舎の維持・修繕費、現第二庁舎の賃借料、建設工事単価の更なる上昇など）が示されず、比較検討できる材料が無いため、総合的に最善の選択であるか判断ができない。③今後のプランが何ら示されていない。

資材価格高騰は、市長就任時に当然認識していたはずであるが、任期中に多角的な試算や財政的な目標設定等、財政フレームを見据えた不断の努力の跡が見られず、経営努力が不十分であったと言わざるを得ない。一方、老朽化した現本庁舎は11年前に耐震性一部ＮＧとされた後も補強が行われておらず、現在は給水配管の不具合が多発している。にもかかわらず、修繕や安全対策の方針も今後いつまで使用できるかも示されていない。この状態のまま現方針の断念のみを決定することは、市民や職員の安全を確保するという市の責務を果たしているとは言い難い。

## 子どもの権利／情報公開

小中学校の建て替え等が短期間に集中する中、現設計では財政破綻することは早い段階で分かっていたはず。ここに来ての断念、白紙化は遅きに失しており、重大な失政。市民3,584人が直接請求した住民投票の実施を拒否して民意の確認を怠るなど、方針転換の最良のチャンスを葬り去ったことも罪深い。この期に及んで、庁舎及び福祉会館建設に充てられる財源額を答えられないなどは、目と耳を疑う。市として支払える限界も分からないで事業を行なっていたことになり、市政の最高経営者として失格。私達には具体的対案がある。

## 小金井をおもしろくする会

白井市長の選挙公約は「財政的課題をクリアした上で、早期建設に向けて動く」であり、実施設計まで終えた現設計での建設が合理的と判断し２度の入札を行ったが、働き方改革や世界情勢による物価高騰等の影響で不調となった。その後のサウンディング調査により建設費は約240億円相当と予測され、後年度負担が過重となることから、市民生活に大きな影響を与えず持続可能な行政運営は難しい、と方針転換した苦渋の決断を重く受け止める。課題は多いが、議会と協力し早急に新方針を決め、市民に説明することを求める。

## 自由民主党小金井

新庁舎建設の財政負担の大きさは市長就任前から認識され、学校施設の建て替えについても将来的な財政負担を見据えた課題であった。今回13年前の基本計画策定時に戻る方針転換に至ったが、その判断根拠となる具体的な財政指標や検討経過は明らかにされず、何を見直せば事業を前に進められるのか今後の財政運営方針等も示されなかった。また公共施設の入札不調事例を踏まえると事業費の見直しや設計変更が一般的であり、現設計を維持するのであれば、その合理的根拠や財源確保策について丁寧に説明するよう求めてきたが十分な説明責任も果たされていない。市長には将来の財政需要を見据え限られた財源の中で方策を示し、決断をもって事業を前進させることが求められるが、新庁舎建設に対する明確な判断も責任を持って事業を動かす姿勢も見えず大きな課題を残す結果となった。

## 小金井市議会公明党

建設物価の大幅な高騰により、「現設計による３回目の入札を目指すことは断念せざるを得ない」との判断については、令和16年度には公債費が400億円を超え、単年度収支もマイナスとなる財政シミュレーションが示されたことから、受け入れざるを得ない。しかし、本年２月の施政方針で「市場動向を注視しながら、早期建設を目指してまいります」としていたにもかかわらず、この段階で方向転換したことには、熟慮が足りなかったと言える。また、現時点で他の事業への影響や代替案も示されておらず、10月の特別委員会でも事業費と時期の目安は示すものの、それとセットで検討すべき具体的な改善の方向性は示せないとのこと。設計の変更内容によっては、事業費や時期が大きく変動する。庁内一丸で取り組み、事業を確実に進め、市民への説明を尽くしていただきたい。

## 参政党小金井

白井議員（当時）を含めた12人の議員が前市長の西岡氏へ提出した要望書から庁舎建設計画推進の迷走が始まった。令和７年に竣工する予定であった計画推進を阻害したのも議会の動きであった。今回の事態は現・旧市長の対応と議会に大きな責任がある。

## 生活者ネットワーク

早期建設のために現設計を是としていたが、このタイミングで市財政を理由に見直しという決断は腑に落ちない。庁舎建設が進まないのは社会情勢もあるが、歴代市長や議会の判断が大きく影響している。建設に向けて合意形成をはかり前に進めるために努力したい。

## 日本共産党小金井市議団

市長が現設計での建設を断念し、設計変更を表明したことは重く受け止める。私たちは市民と一緒に、市民の声を反映し、コストダウンにより財政負担を減らす「見直し案」を提案してきた。市長の決断は遅きに失した。また、今年２月市が新方針を決定する過程で、借金の残高が大幅に膨れ上がることはわかっていたが、市民や市議会に説明はなかった。私たちは３月以降、学校施設長寿命化計画と現設計を同時並行で進めれば、財政規律ガイドラインの借金残高の上限を超え、市民生活に重大な影響が出ることを指摘。15年間の財政の見通しを示すことを求めてきた。しかし市長は現設計にしがみついた。財政的な検討を怠った市長の責任は重大である。

今後市が財政規律を遵守し、行政・議会・市民の総意のもとシンプルで災害に強い庁舎等建設を進め、市民生活を守れるように求めていく。

## 自民党・街の仲間たち

私は当初から「時間もコスト」と訴え、新庁舎の早期建設を求めてきた。白井市長が早期建設の方針を見直したことは、極めて残念である。今後は、庁舎建設に充てる費用の上限を明確に設定し、それを前提に中長期的な財政計画を着実に組み立てていくべきである。

## いのちの党小金井

財政計画上の見通しが極めて厳しいことから、設計見直しを求めていたので、遅過ぎるが当然の判断と受け止めている。今後は中長期の総合的財政見通しと適正予算を明らかにし、外部を含めて知見を結集し、相応しい設計を具体化して早期着工を目指すべきである。

## 小金井市政を見える化する会

新庁舎の設計撤回を歓迎する。入札失敗にもかかわらず設計を見直さない根拠の無い予算増額が問題であった。2020年からの専門家の助言を無視してきた結果でもある。他の公共施設も含めた財政見通しを算定し、市民に分かりやすく情報公開・見える化すべきである。

## 緑・つながる小金井

財政を理由とする断念だが、提示された資料では財政全体の把握ができず、対案も示されなかったため、適切か判断しかねる。このような事態になっていることを中長期的にみると、市長のみならず、市議会にも責任がある。建設的な議論による最適解を目指したい。

# ご意見をお寄せください 広報・広聴ビジョン（案）

詳細はこちらから

広報・広聴協議会は、①これまで市議会が取り組んできたこと、②市議会の課題、③取組の方向性、④推進体制の４項目で構成した「広報・広聴ビジョン（案）」を策定しました。広報面は「わかりやすい広報・情報発信への取組」、広聴面は「市民の声を反映し、ともに考える仕組みづくり」を目指します。詳細をご覧いただき、ぜひご意見をお寄せください。

※個別回答はできませんので予めご了承ください。
※提出の際は氏名をご記載願います。

ご意見はこちらまで

件名：広報・広聴ビジョン

・インターネット webフォーム
https://logoform.jp/form/pCd3/1407763

・郵送　〒184-8504
小金井市本町6-6-3
小金井市議会事務局

・FAX　042-387-1225

締め切り　2027年１月15日　消印有効
お問合せ　TEL 042-387-9947



次の定例会は令和８年12月10日（木）開催予定です。

原稿は議員が作成しています